

2024年度教育学科 入学者受入れの方針に照らした 大学入学者選抜の取組の適切性に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの志ふり返り（学科／研究科専攻の入学者受入れの方針）」のデータを活用した検証を行った。学科の入学者受入れの方針は以下の通りである（<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fe.html>）。

「保育・教育にかかわる者として乳幼児・児童・生徒をとりまく日常生活や周辺環境で生じる諸課題を広い視野でとらえ、深く理解し対応できる力が必要になります。そのため入学後の学修や実践に必要な知識を有し、それらを自律的な学修によって伸ばしていこうとする向上心と意欲、保育・教育に貢献していこうとする使命感を有する学生の入学を期待します。」

「大学入学者選抜の取組の適切性」の結果

1. 対象となる1年生の回答者数は184名(74%)であった。
2. 各項目、最低点が1点、最高点が6点であり、4項目の平均点は、「相互理解」が4.7点、「的確な表現」が4.6点、「論理的思考」が4.6点、「人間の営みへの関心」が4.5であり、昨年度と同等ないしは0.1～0.2ポイント低下したものの、選抜された入学者の状態は概ね良好であることが考えられた。
3. 6段階の各回答者の割合を項目別に求めると、下位3段階（3：あまりそう思わない、2：そう思わない、1：全くそう思わない）の回答者の存在割合は8～14%であり、昨年（6～9%）、一昨年（3～8%）に比して増加傾向が認められ、教職員間での情報共有、指導上の配慮の備えの必要性が増している可能性が考えられた。

